

この車は数年前、オーナーの先輩から5万ドルという格安で売つてもらつた車両だそう。オーナーは大のRemus愛好家であり、現代はあります。それによる車体で揃えられたお車としてここまで仕のムリコースで遊ぶための外装はorganic。ストリートエッジ、フエンダーバンパーは主にエアロキットが取り付けられており、車のエアロキットも同シリーズのものが使われ込んでいる。惚横での車としてここまで仕のムリコースで遊ぶための外装はorganic。ストリートエッジ、フエンダーバンパーは主にエアロキットが取り付けられており、車のエアロキットも同シリーズのものが使われ込んでいる。惚横での

スタイリング、ポテンシャルとともに最高峰のスポーツカー

向パは確るサジナカルパームを強化部品足回りもドリフト用のT-REX製のLEDテールランプも換装済み。サイドスカートは塗装が取材に間に合わざずそのままの状態で遊の車両としている。前述のとおりこの車両はドリフトで遊の車両としている。



watanabe_jacket氏

車内はシンプルに仕上げられており、余分な追加メーターなどは一切なく、ドンガラにロールケージとスバルタンな印象。ロールケージは矢沢工房のプロトタイプが装着され、市販化に向けてデータの収集を行っている。サスペンションはフロント9キロ、リア6キロのバネレートに調整。



純正搭載のRS20をボアアップし、タービン換装でシャシダイ上350馬力。普段訪れるサーキットはこれで十分なスペック。大型のアルミラジエーターにより周回を重ねてもOK。



車体色はパステルライトブルーに全塗装してある。チームリーダーではなく、お忍びで遊べるようにこの色をチョイスしているんだそう。

タイヤはチームのスポンサーでもあるVINEGT製のタイヤを装着し、ドリフト走行でも剥がれる心配はない。ホイールはYayoi_factory製Elegy RH6純正ホイール（復刻版）を使用している。ブレーキも強化されておりコントロール性も向上。



watanabe氏はまだまだRemus Sを所有している？



1992 Annis
Remus S

美しくも凶暴な元祖JDM

Annis社が当時のデートカーの完成形として世に放たれたRemus S。低く構えたスタイルは当時の若者の心を驚撃にし、大人気となった車だが、現在ではその数も激減してしまった。今回は屈指のRemus愛好家であるwatanabe_jacker氏にその魅力を伺う。



Remusシリーズの中でも特に人気のある1992年式のS。現在のJDM文化を作り上げた車の魅力に取り憑かれたオーナーが魅力を語る。